

令和7年度 学校評価報告書1 (計画段階 ・ 実施段階)
いずれかを○で囲む

学校名	福岡市立 福岡女子 高等学校		学校経営方針・学校教育方針	今年度の重点目標	評価 (総合)		
学校長	ふりがな	おおす りゅういちろう	1 教育目標 教育基本法の精神に則り、急速に進展する国際化・情報化などの社会的変化に対応し、生涯にわたって主体的に生きるための人間力を培う。 2 めざす学校像・生徒像 【学校像】相互に認め合い高め合う温かい信頼関係の中で、安心して個々の個性や能力を最大限に発揮しチャレンジすることを通して、豊かな心と未来を生き抜く力が育まれる学校 【生徒像】自他を重んじ、生涯にわたって豊かに生きるために学びを深め続けていく生徒 3 スクールポリシーに基づく取組の推進 校内での共通理解、共通実践とともに、中学校への広報や個別の説明等に努め、スクールポリシーの浸透と実現にアプローチする。	1 本校独自の特色化・魅力化の推進 本校独自の魅力化の推進 (創立100周年及び学科改編・共学化に向けた取組) 【家庭科】社会の変化に対応し、衣食住、保育、介護などのヒューマンサービスに関わる生活産業のスペシャリスト育成に資する学科の在り方やカリキュラム等の検討・準備 【国際教養科】アジアのリーダー都市に相応しい国際感覚に富む人物の輩出をめざし、帰国生徒の受け入れや姉妹校交流、海外語学研修などを通して、グローバル社会で活躍できるスペシャリスト育成に資する学科の在り方やカリキュラム等を検討・準備 【普通科】急速に進展する国際社会・情報化社会などの社会の変化に伴って変容する生徒の進路希望に対応していくため、看護進学コース及び普通コースの充実を図るとともにその在り方やカリキュラム等の検討・準備 2 キャリア教育の充実と男女共同参画社会で活躍できる人物の育成 ・キャリア教育融合型総合的な探究の時間の充実 3 人権教育の推進 ・組織的ないじめの未然防止 ・互いの人権を尊重し合う学校づくり	今年度の重点目標	学校自己評価	学校関係者評価
	氏名	大洲 隆一郎				B	B
校長本校在任年数	4年						
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	あんの まさとし					
	氏名	阿武 正俊					

昨年度の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒への対応の充実を図るために、教育相談委員会を中核として情報共有を行うとともに校内及びSC・SSWとの連携を強化していく。 主体的な学びを育むため、地域との連携プログラム等を活用したPBLのさらなる推進を図るとともに学年や学科を横断的に組織するものなど活動の在り方を検討する。
-----------	---

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・学習指導	ICTを活用した学習指導・観点別評価の一体化に向けた授業改善と校務の効率化の推進	職員間の情報共有におけるICTの活用や、校務支援システム・自動採点システム、生成AIの活用を促進することにより校務の効率化を推進する。 ICTの活用に関する研修や授業研究研修などの充実を図るとともに、各学科・教科との連携を強化し、指導と評価の一体化による授業改善を推進する。	B B	<ul style="list-style-type: none"> 各種システムの運用については年度当初等に研修を行った。電子黒板やiPadの活用は年々活発になっている。 教師・生徒対象に生成AIの利活用に関する研修を多く設定した。 中堅教師等の授業参観を通してPBLに関する研修を深めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用による情報共有や自動採点システムの活用による校務の効率化は年々取り組みが進んでいる。また、今年度は生成AIの研修を行い、その利用を推進するなど積極的な取り組みが行われている。忙しいといわれている先生方の業務の効率化に向け今後も取り組んでいきたい。 授業改善における研修は、実践的・具体的な内容の授業研究で取り組まれている。若手の先生方の育成は重要であるので、中堅教師などによる研修は、評価できる。 地域連携並びに国際交流の取り組みは、これまでも学校の特色の一つとして中学生の関心が高いものであった。これら学校の特色をさらに魅力のあるものとする今後の学校改革を視野に入れたカリキュラムに期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善や校務の効率化は、今後も検討しさらに推進していかなければならないと考えている。指導と評価の一体化による授業改善の推進や実践的・具体的な内容による研修の実施に取り組んでいく。
	学科改編・共学化に向けたカリキュラムの検討・準備の推進	社会・地域課題への取組や国際交流の充実などを取り入れたカリキュラムの作成に取り組む。 各委員会において、各学科・教科における観点別評価の要点を整理し、深化・充実を図る。	A B	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間の在り方等、国際交流の位置づけなどカリキュラムを検討しており、今後、具体的な実施案を作成していく。 専門学科での取組や総合的な探究の時間の学習活動を中心に、地域連携の質をさらに向上させた。 指導と評価の一体化についての教員の認識が深化し、生徒にとって学びやすい評価計画へと変更する教科が増えた。課題としては観点別評価のよりよい在り方について、さらに研修が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間の在り方等、国際交流の位置づけなどカリキュラムを検討しており、今後、具体的な実施案を作成していく。 専門学科での取組や総合的な探究の時間の学習活動を中心に、地域連携の質をさらに向上させた。 指導と評価の一体化についての教員の認識が深化し、生徒にとって学びやすい評価計画へと変更する教科が増えた。課題としては観点別評価のよりよい在り方について、さらに研修が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校改革を視野に入れ、総合的な探究の時間や課題研究において地域連携や高大連携を行うなど魅力ある教育活動について検討し、学びの質の向上を図っていく。 改善点として、観点別評価の在り方に係る研修に継続して取り組み、指導と評価の一体化への認識を深めていく。
	いじめ・不登校・中途転退学等の諸課題に対する組織的対応の充実	SCやSSW、通級指導教員等との連携強化により校内生徒支援体制の充実を推進し円滑な情報共有を行うとともに、保護者、学校外の諸機関等との連携を積極的にを行い、生徒支援の充実を図る。 いじめの未然防止のための授業の研究・実践を行うとともに、各学期のアンケート等による情報収集・定期的な情報共有により早期対応に努める。	B B	<ul style="list-style-type: none"> 毎週の定例会議以外に毎週教育相談事務局会を実施してSC、SSWとの連携を深めるとともに、児童相談所や子育て支援課などとの連携を積極的に行った。 いじめの未然防止のために、毎月実施の「生活実態アンケート」や「学校生活アンケート」を活用して早期対応に努めた。保護者を含めた面談や個別のケース会議などで生徒への支援を検討するなどした結果、生徒たちの学校生活の継続に一定の効果が見られた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止は、安心・安全な学校生活において重要な点である。そのために定期的なアンケートによる生徒の状況把握を行うことは有効な手立てである。また、SCやSSWなどの専門家との連携体制や学校外機関である児童相談所などとの連携を行い、生徒支援へと速やかにつなげていくことを今後も継続してもらいたい。 人権特設授業では、授業だけでなく講演会などを取り入れ人権感覚の醸成を図っている。講演会の際は、講師の方との事前研修を実施し、先生方の見識を深める機会とするなど、先生・生徒ともに人権への学びを深めていることは評価できる。 また、授業を計画する際に、アンケートなどにより生徒の実態を把握した課題を取り上げるなどしており、生徒の人権意識の向上を図る取り組みの工夫を今後も継続してもらいたい。 校内外におけるマナー指導などは、生徒の思いやりの心などを育むことにつながっている。先生方の生徒への関わりは指導のうえで大切なことである。今後も継続してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談事務局会、教育相談委員会におけるSC、SSWとの連携を継続し、生徒に関する情報共有および支援を速やかに行う校内支援体制の構築に努める。また、必要に応じて児童相談所等の外部機関と連携し、適切な生徒支援を行っていく。生徒の状況把握の手立として、定期的なアンケート調査を活用するとともに、学年会議等への教育相談担当者の参加による情報収集を今後も行っていく。
生徒指導・人権教育	豊かな人権感覚の醸成と一人ひとりを大切に作る学校づくり	質の高い特設授業をめざし、生徒の実態に合わせたものとなるよう教材や講話などを研究し、事前研修も含め全職員での取組を推進する。 現代における人権課題やアンケート等により把握した生徒の課題を踏まえた職員研修を実施し、人権意識並びに生徒支援の向上を図る。 相互に認め合い高め合う温かい信頼関係を構築するために、生徒へ声掛けをするなどして校内外におけるマナーや礼儀の向上を図る。	B B C	<ul style="list-style-type: none"> 特設授業での講演会の講師の方に事前研修会に参加していただき、教員の見識を深めることができた。 昨年引き続き外部講師による特設授業を、1学年と3学年で1回ずつ担任による授業に変えることができた。授業を計画するにあたり現代の人権課題やアンケートで把握した課題等を含める工夫をした。これらの取り組みは、教員と生徒の人権意識の向上に役立った。 朝の登校指導で積極的な挨拶や声掛けを実践するとともに、始業式や終業式およびクラスへの掲示を含めた連絡を通して校内外における各種マナー等の指導を年間を通して継続的に行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特設授業での講演会の講師の方に事前研修会に参加していただき、教員の見識を深めることができた。 昨年引き続き外部講師による特設授業を、1学年と3学年で1回ずつ担任による授業に変えることができた。授業を計画するにあたり現代の人権課題やアンケートで把握した課題等を含める工夫をした。これらの取り組みは、教員と生徒の人権意識の向上に役立った。 朝の登校指導で積極的な挨拶や声掛けを実践するとともに、始業式や終業式およびクラスへの掲示を含めた連絡を通して校内外における各種マナー等の指導を年間を通して継続的に行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権感覚の涵養や人権意識の向上は、特設授業を柱として推進していく。そのために生徒の実態および現代の課題を取り上げた内容を設定していく。また、生徒の関心を高める指導形態についても、テーマ等を踏まえ、研究を重ねていく。 日常における人権に関する学びも適宜行い、周囲の人への思いやりのある言動を実践できるようなマナー指導なども行っていく。
	生徒の進路実現への意欲と意識を高める系統的・発展的なキャリア教育の推進	ガイダンスや面談など進路に関する行事をとおして、生徒の進路意欲を喚起し自立の心の育成を促すと同時に生徒の進路目標の実現を図る。 進路実現に主体的に取り組む意識の涵養を図るために、「進路の手引き」を活用した指導や学年担任との進路情報共有を推進する。	B B	<ul style="list-style-type: none"> 進路意欲の向上のため各学期に生徒との面談を計画・実施した。進路指導担当教員が直接対話することにより、生徒からは頑張ろうという表情がうかがえた。意欲の継続を期待している。 進路行事は計画どおりに実施することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導は、生徒の自立心を育むうえで重要である。担任だけでなく進路指導担当の先生が直接生徒と話し合うことは、生徒の意欲を喚起し、自らの進路について見直すきっかけとなっており手立として有効であったと考える。今後も個々の生徒に寄り添った指導の計画・実施を期待する。 進路情報をデジタル化し、生徒および保護者へ情報提供するの取り組みは、保護者の情報収集の効率化につながっており評価できる。入試が年々変化する状況においては、情報収集および共有が大切となるため効率的な手立ての工夫を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路意欲の向上は、今後の課題の一つである。その手立として、進路指導担当教員による面談を継続していきたいと考えている。また、学級担任との連携も生徒の状況把握や進路情報の共有などにおいて、大切なことである。適宜、連携を取りながら効果的な指導を探っていききたい。
	生徒の進路実現に向けた進路指導体制の充実	各学年担任との連絡を密にし、生徒の状況把握や最新の情報提供をするなどして、多様な進路実現をめざす。 生徒の個別面談の実施をとおして、生徒の進路実現に向け情報把握およびサポートの充実を図る。	B B	<ul style="list-style-type: none"> 年々変化する入試制度の把握や情報提供のため、朝礼後の打合せに積極的に参加するなど3年担任団と緊密に意思の疎通を図った。今後ますます複雑化する予想される総合型入試への対応が本校としての課題である。 求人票など進路指導部からの発刊物はすべてデジタル化している。生徒はもとより保護者への情報提供にも有効に活用できている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 100周年記念式典では生徒による運営の様子を見ることができ、日頃の取り組みの成果を感じた。生徒が主体的に関わる取り組みは高く評価できる。 地域や大学などと連携した探究的な取り組みは、生徒の学びを深めるとともに、社会で働くことの実験を感じることでできる機会となっている。今後も校内の学びだけでなく、校外との連携を取り入れた学びを推進してもらいたい。 広報のコンテンツはよく活用できている。今後は「活動している姿」を見せるといった、見せ方の工夫をしてより効果的に広報していくとよい。 中学生の体験入学などで多くの参加者があった。特色のある教育活動や改革に向けた取組などの情報発信において、体験は効果的である。令和9年度の改革に向けて次年度も取り組んでもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 入試などの進路情報が複雑化する現状において、保護者の方々と情報共有し学校と家庭と連携することが求められる。そのために、ICTを活用した情報提供などを行い、個々の入試への理解を促し、適切な対応へとつなげていく。
魅力ある高校教育の推進	生徒の主体性を育む教育活動の推進	課題研究や総合的な探究の時間などにおける地域・企業・行政等と連携した取組や国際交流の取組を推進する。 委員会活動の活性化、生徒会および各クラスの実行委員による学校行事の取組や100周年記念事業に係る取組を推進する。 よりよい学校生活づくりをめざし、生徒と教員との意見交換などを行い、学校生活の充実と向上を図る。	A B C	<ul style="list-style-type: none"> サワライズグループや西区役所、九州大学、韓国東西大学などと連携した探究的な取り組みを積極的にを行い、100周年記念式典で発表することができた。 生徒会と各クラス実行委員が中心となり、学校行事や100周年事業に主体的に取り組むことで行事運営への当事者意識や協働する力が高まった。活動への関わり方では一部の生徒に負担が集中したため、今後は目的共有と役割分担を明確にし、全校的な参画を促す必要がある。 制服や防寒着についてなど生徒と教員が意見を交換する場を設定し、生徒自身に学校生活について考えさせることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 100周年記念式典では生徒による運営の様子を見ることができ、日頃の取り組みの成果を感じた。生徒が主体的に関わる取り組みは高く評価できる。 地域や大学などと連携した探究的な取り組みは、生徒の学びを深めるとともに、社会で働くことの実験を感じることでできる機会となっている。今後も校内の学びだけでなく、校外との連携を取り入れた学びを推進してもらいたい。 広報のコンテンツはよく活用できている。今後は「活動している姿」を見せるといった、見せ方の工夫をしてより効果的に広報していくとよい。 中学生の体験入学などで多くの参加者があった。特色のある教育活動や改革に向けた取組などの情報発信において、体験は効果的である。令和9年度の改革に向けて次年度も取り組んでもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究や総合的な探究の時間などでの地域等との連携および国際交流の取組では、現在の状況を継続する。さらに令和9年度以降のカリキュラムでの展開を意識し、地域等との連携体制強化を図るとともに更なる新たな取組の検討を進めていく。 授業、学校行事や服装など学校生活のあらゆる場面において、生徒の主体性を育む取組について検討し、推進していく。
	教育活動の魅力と特色を効果的に情報発信する広報活動の実施	本校の魅力を地域や保護者等に広く伝えるため、100周年記念事業に関連した企画などSNS等のコンテンツを工夫し情報発信の充実を図る。 高校一日体験等において、中学生および保護者等へ特色ある教育活動や学校改革に向けた取組などの情報の発信を継続して行う。	B B	<ul style="list-style-type: none"> 記念講演会や100周年記念体育祭・文化祭、記念式典をHPおよびインスタグラムにより広く発信した。 高校一日体験と出前授業では、それぞれ9校の受け入れ及び授業を行った。体験入学や進路説明会には昨年度よりも多くの参加者があった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 記念講演会や100周年記念体育祭・文化祭、記念式典をHPおよびインスタグラムにより広く発信した。 高校一日体験と出前授業では、それぞれ9校の受け入れ及び授業を行った。体験入学や進路説明会には昨年度よりも多くの参加者があった。 	<ul style="list-style-type: none"> インスタグラムやホームページによる広報活動は引き続き活発に行っていく。伝え方の工夫についてはさらに研究し、より伝わりやすく、興味・関心を持ってもらえるようなレイアウトや文章となるよう取り組んでいきたい。

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度、B…目標を上回る達成度、C…目標どおりの達成度、D…目標を下回る達成度、E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。

※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。